



小原地区遠景



畑仕事をする重松さん



動物除けを作ります



畑で風にゆれる風鈴

山で暮らす??

いま「田舎暮らし」が見直され、県外から大勢のかたが勝山市内に農業体験などに訪れています。中には定住を目指し、自然と向き合い勝山市内で生活を始めたかたがいます。その生活の実践の中に、山村の集落の未来と、現代人が回帰すべき暮らしが見えるような気がします。まさに「スローライフ」がここにあります。



横浜市出身の重松あゆみさん(35)は、福井県のエコ・グリーンツーリズム事業の都市農村交流員として、北谷町小原の再生を目指す「小原ECOプロジェクト」に参加し、現在は小原の古民家を修復した民宿「フクジユ荘」の管理人をしています。今は市街地から通っていますが、いずれは小原に住みたいと思っています。そんな重松さんに小原で暮らすことについて語っていただきました。

「定住する場所を探していた」

私はこれまで調理師の仕事をしたが、農業にも体験ではなく仕事として交互に携わってきました。そして日本各地で野菜づくりをしながら、定住できる場所を探していました。

もともと福井県が気になる土地であったのですが、小原に来るきっかけとなったのが、「定住するなら雪を知ってから」と、福井県の担当者からすすめられ、1月に現地で開催された小原ECOプロジェクト主催の豪雪体験に参加したことです。

雪は例年より少なかつたそうですが、何とか住めそうだと思いました。

「自分の力で暮らそう」

小原地区に住みたいと思ったのは、何も無いところ、なにか原始的で、本質の見えるものの近くに住みたかったからです。

何でもボタン一つでできてしまう便利な世の中ですが、電気が止まればみんな止まってしまう。ちょっとした機器の故障も自分で直せない。自分の力・能力を使って生きていない感じがします。私は、あえて自分の力で暮らせる場所として小原地区を選びました。

「小原は生きづらい」

小原のたたずまい、その姿そのものに価値があると思います。また、そこに可能性を感じています。

現在2人のかたが住んでいますし、勝山から通いでお手伝いに来てくれたり、農作業に来るかたもいます。小原ECOプロジェクトの皆さんや、古民家修復に来る学生さんなど、小原を大事に思う、いろいろな人の思いがあつて、この集落は生きていけると思います。

限界集落であるけれども、新しい形での集落再生の道が開けてきているのではないのでしょうか。それが私の感じている可能性です。

「旅のつづき」

自然の恵みの中で、感謝の心を持って生きていく。自然体で暮らすことで、自分が十分幸せであるということに気づきます。

小原へは本当に安らぎに来てほしい。そんな宿をやりたいと思っています。都会の生活や、日々の暮らしに疲れた人たちが、川のせせらぎを聞きながら、何もせずに時間を過ごしてもいいし、それが最高のせいとくだと気づいてもらいたいのです。

小原ECOプロジェクトとは?
小原区や森林組合、福井工業大学、および個人ボランティアなどが連携し、小原の歴史・文化・生活様式・自然資源を未来へ継承し、小原地区の再生を目指す団体。
現在は古民家修復、登山道補修、山村生活体験ツアーなどを主に行っています。

代表 國吉一寛さん
会員約40数名

※重松さんのブログ「日々は小原日和」
<http://ameblo.jp/peacefulnest/>
かみゆいんぐんぐん